

# 令和7年度 地域ケア推進会議 議事要旨

日 時	令和7年11月7日（金） 午後1時30分～3時10分
場 所	聖籠町保健福祉センター 大集会室
出席委員 (敬称略)	<p>みどり歯科 院長 大浦寿郎 （医） 葵会 新潟聖籠病院 医療福祉相談室 室長 磯部陽介 （一社） 新発田北蒲原医師会 しばた地域医療介護連携センター 副センター長 平野真弓 （株） ユニスマイル はまなす薬局 管理薬剤師 長井裕美 （福） 聖籠町社会福祉協議会 事務局長 飯田一雄 （福） 聖籠町社会福祉協議会 事務局次長兼地域福祉推進センター長 荒井武士 （福） 聖籠福祉会 特別養護老人ホームはすがた園 施設長 牧野房子 （株） SOMPOケア聖籠 管理者 湯浅絵梨香 聖籠町民生委員児童委員協議会 会長 田村八四男 （公社） 新発田地域シルバー人材センター聖籠事務所 所長 大沼理一 聖籠町老人クラブ連合会 会長 渡邊幸明 聖籠町保健福祉課 課長補佐保健師 渡邊郁子 聖籠町長寿支援課 課長 齋藤大輔 聖籠町地域包括支援センター 管理者 阿部洋子(長寿支援課 課長補佐保健師 兼事務局)</p>
議題	<p>導入 地域ケア会議の目的</p> <ol style="list-style-type: none"><li>（1） 聖籠町の高齢者に関するデータの推移</li><li>（2） 地域ケア個別会議から抽出した課題</li><li>（3） 介護予防に関する事業の取り組み</li><li>（4） 生活支援体制整備事業に関する取り組み</li><li>（5） 認知症事業に関する取り組み</li><li>（6） 医療と介護の連携に関する取り組み</li></ol>

会議出席者  
からの意見  
(一部)

- もしものときにどのような生活や医療、ケアを望むのかといった人生会議について、冊子を広報などに挟めて配るというのも良いと思った。
- 人生会議ノートについて、書くことが目的ではなく、自分自身の気持ちを確認すること、家族と一緒に話し合うことがとても大事。
- 義歯に関しては、1回作ればずっと使用できるというものではなく、体調によっても義歯の使用感は変わってくる。町の方でも高齢者を対象に歯科衛生士が義歯の調子を伺ってくれるなどオーラルフレイルについて感心している。
- お茶の間聖海荘のイベントで移動販売車を呼んだということだが、それを地域の方に広げることができればお願いしたい。中々買い物に行けない高齢者も自分で見て買い物をすることでテンションも上がると思う。
- パワーアップ教室（通所型サービスC事業）の定員8名は適正か。  
⇒（事務局）教室は非常に好評で効果も出ており、来年度に拡充を検討中。
- 集落やお茶の間から移動に関する心配事を把握しているため、様々な機関と連携していけないか検討が必要。
- タクシー券はありがたい。免許の有無の把握は難しいと思うが、年齢や地域で何割くらい申請があるのか統計をとるのも良いと思った。
- 最期は病院でと話していた方も、やっぱり最期は自宅だと希望が変わる場合もよくある。希望や意向が変わった時にその都度相談できる環境を整えていくことが大切。
- 施設での看取り希望の場合、状態の変化に応じてご家族や医師と今後どうするかという話し合いをすることで希望に沿うようにしている。
- 仕事で認知症と思われる方やその家族と関わることもある。事業の紹介や町の認知症事業のチラシを医療機関などの窓口に設置することで紹介するきっかけになると思った。  
⇒（事務局）認知症事業や町包括のチラシを置かせていただければありがたいのでお願いしたい。
- 高齢の友人同士で行き帰りにお互いにタクシー券を出し合って月1回受診していたり、普段日中はいないが、土日になるとお孫さんがおばあちゃんを買い物へ連れて行ってくれるなど地域の力や家族の力がまだまだあるなど感じている。移動支援や茶の間支援などの制度を良くしていくことも大事だが、並行して地域の力や家族の力の底力を出せるような支援をしていきたい。
- 介護予防だけでなく、健康づくりという点で生活習慣病予防のためにも歯と口腔の健康が大事。20～30代は歯に関する意識が高く、40～50代の働くことで精一杯、たばこも酒もやめられませんという方たちが歯のことが後回しになっているというのを実感するので、6代になってから気づくのではなく、もっと早い時期から頑張れるよう啓発が必要。



会議の様子

